



丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く ～

令和2年2月28日（金）No.11

横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

ともに生きる社会のために

校長 新井 篤志

令和最初の卒業式が3月19日に行われ、58名の卒業生が丸山台小学校から中学校に進学します。卒業生にとっては中学校という大きな環境の変化の中に身を置くこととなります。それゆえに、新しい世界での大きな期待と無限の可能性に胸を膨らませていることでしょう。その一方で、見知らぬ環境での学校生活を過ごしていくことに不安を感じる面もあるでしょう。でも、期待も不安も必ず人として成長していく上での大きな力になると思います。卒業生の活躍を期待しています。

これからの社会ではAIが私たちの生活や仕事に大きく影響を与えることが容易に想像できます。でもこれだけ急速にAIが進歩するとは思えなかったでしょう。手塚治虫氏の「鉄腕アトム」や藤子不二雄氏の「ドラえもん」などはロボットであると同時にそれ以上の存在と言えるでしょう。まさにAIが最終的に目指す姿ではないかと思えます。今盛んにAIのことが話題になっていますが、私たち人間が行っている仕事がAIにとって代わられて人間の仕事がAIに奪われてしまうことが話題になります。これは、AIの進歩が私たちの生活を脅かすのではないか、あるいはAI対人間のように対峙する関係のようなどらえが浮かんでしまいます。しかし本来、AIの進歩は人間の生活を豊かにしていくものとして考えられていて、現在も変わらないと考えます。昭和の時代に描かれた「鉄腕アトム」や「ドラえもん」は人々のために活躍し、人間と何も変わらないロボットであり、人間とロボットという区分けも感じさせない存在となっています。互いに対等の立場です。また、「鉄腕アトム」は人間とロボットの関係の葛藤も含まれているところに、私たちが生きていくこれからの時代について考えさせられる手塚治虫氏の先見の明を感じます。

このことはAIに限らず人間同士にも言えることではないでしょうか。仕事などでの役割や立場は様々ありますが、人として対等であるという考え方のもとに物事を進めていくことが大切だと考えます。私たちの住む神奈川県には、かながわ憲章「ともに生きる社会」があります。この実現には誰であろうが相手の存在を認めて生活をしていくことが大切です。

私の好きな言葉の1つに「リスペクト」があります。「尊敬」「尊重」という日本語では表現しきれない意味が込められている言葉だと思います。この言葉を思い浮かべて相手を理解する気持ちを持ち続けたいです。



1月に実施した学校評価アンケートの結果をまとめました。それぞれのアンケートで項目ごとに、経年変化も含めて考察を行いました。この結果を学校評価報告書にもまとめました。ご一読ください。

保護者の皆様には、アンケートへのご協力ありがとうございました。文章表記された貴重なご意見は、今後の学校運営の参考にさせていただきます。